

### 第3回経済地理学会賞選考結果

候補者名 : 小田 宏信

受賞著作 : 『現代日本の機械工業集積

-ME 技術革新期・グローバル期における空間動態』

(古今書院, 2005年、292ページ)

受賞理由 :

現代の産業集積をめぐるには、経済地理学も含め、諸領域で活発な議論がくり広げられている。本書は、日本の経済地理学における産業集積研究の流れをふまえながら、関連領域でくり広げられている議論における問題関心をもカバーすることで、現代日本の機械工業集積の研究に果たす経済地理学的アプローチの有効性、意義をアピールしていると思われる。

本書の主体をなすのは、機械工業の生産システムの変容と立地変動を、機械工業の共通の基盤分野である金型製造業の動向に中心を据えて、実証的に分析したものである。

1) マイクロエレクトロニクス技術革新期以降、グローバル化期に至る期間における日本の機械工業の生産システムの変容、立地変動を大都市圏中心部、同周辺部、地方中心都市、地方小都市という地域類型ごとの実態分析を通じて明らかにした点が評価できる。

とくにこうした変動過程を、機械工業の生産システムにおける大変動という局面に位置づけ、歴史的な研究枠組みをもって、議論しようとしている点が評価される。

2) 晩期20世紀、21世紀的なシステム形成、あるいは経済社会のレジームといった用語、概念が十分消化されているとは言い難い面も残すものの、ME化による機械工業集積の変動過程を実証的に分析する際に目配りされている問題把握には、日本一国を超えた世界の産業集積への関心が組み込まれており、荒削りの歴史的な問題構成との橋渡しとして著者の考える方向性を垣間見させてくれている。今後の研究の深化を期待を感じさせるに十分と思われる。

3) 経済地理学のみならず、周辺諸分野においても研究が進んできた産業集積について、英語諸国における研究の蓄積を視野に入れながら、理論・実証の双方から解明しようとしている点が評価できる。これを通して、経済地理学が産業集積を解明していく場合の特徴が明らかになった。

以上の理由により、経済地理学会賞選考委員会は、受賞著作が、内規第2条で規定される対象著作のなかで最もすぐれたものであると判断し、小田宏信会員を第3回経済地理学会賞受賞候補者として推薦する。

2007年4月10日

経済地理学会賞選考委員会

委員長 上野和彦